

抗 cMyc phospho-Ser62 抗体、モノクローナル(33A12E10)

71-161 50 μ g

cMyc はヒトの種々の癌で広く高発現しているプロトオンコジーンである。cMyc タンパク質は多数の遺伝子の転写の促進と抑制に働き、細胞の増殖、アポトーシス、分化、幹細胞の自己更新を制御しています。cMyc タンパク質の Ser62/Thr58 のリン酸化は細胞の増殖と細胞周期の制御に密接に関係している。Ser62 のリン酸化は Ras によって誘導される cMyc 安定化と活性化に必須であり、cMyc の分解のための Thr-58 のリン酸化にも必要である (文献1)。

用途

1. ウェスタンブロッティング (~1 μ g/ml) 2. ELISA

製品の性質

抗原: ヒト cMyc タンパク質の phospho-Ser62 を含む合成ペプチド

isotype: マウス IgG2b (κ)

性状: 精製モノクローン抗体 (IgG) 1 mg/ml in PBS, 50% glycerol

反応性: Ser62 がリン酸化されたヒト cMyc タンパク質。マウスやラットも同じ配列を持っているので、反応すると考えられるがテストされていない。

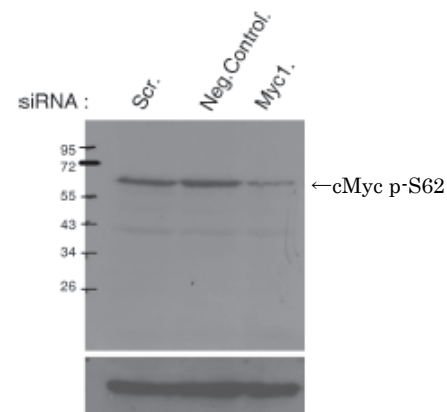
保存: -20°C (長期 -70°C)

文献: 本抗体は文献2に使用されている。

- Sears R et al. Genes Dev. 14:2501(2000)
- Junttila MR et al. Cell 130: 51 (2007)

図. ウェスタンブロッティングによる cMyc phospho-Ser62 タンパク質の本モノクローン抗体を用いたの同定.

試料: AGS (gastric adenocarcinoma)細胞の粗抽出液。抗体使用濃度は 1 μ g/ml
 Scr; cMyc と無関係な配列の siRNA ミックスをネガティブ コントロールとしてトランスフェクトした。Neg.Control; Qiagen 社のネガティブ コントロールの siRNA ミックスをトランスフェクトした細胞。Myc1; cMyc 用の siRNA をトランスフェクトした細胞。
 このデータはフィンランドのTampere大学のDr. A. KhannaとDr. J. Westermarkから提供された。



ユーザーのコメント: "It certainly looks that S62-p-Myc antibody specifically recognizes c-Myc protein in human cancer cells and will be a very useful resource for future studies." Dr. Jukka Westermark, Institute of Medical Technology, University of Tampere